

団体名	NPO法人 子どもの環境を守る会 ワールド	活動タイトル	課題を抱える子どもたちの早期発見と社会的自立に向けた支援事業	
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■ 活動風景	
● 地域の望ましい社会状況（ビジョン）	当団体の理念は、「一人ひとりが高価で尊い、一人ひとりが違うから素晴らしい」である。子どもたち一人ひとりが異なる素晴らしい可能性を持っている。子どもたちがお互いを尊重し合って助け合い、素晴らしい日本の将来を切り開いていくために、社会的に自立する力を身につけられるようにサポートされることが望ましい。そのために、課題が表面化している子どもたちへの支援はもちろんのこと、地域が一体となって早期に課題の兆候がある子どもたちを発見し、必要な支援を実施して、深刻化の予防を行う。そして、支援を受けた側が支援者として活躍する、よい循環がなされる地域共生社会づくりをめざす。		 <p data-bbox="1447 472 1599 520">学習・生活支援を行う居場所づくり</p> <p data-bbox="1653 679 2085 730">不登校児童であっても、各児童がスタッフと打ち解け合うと、少人数であれば他の児童と交流する機会を作ることができた。</p>	
● 団体の社会的役割（ミッション）	日本の将来を担うのは、子どもたちである。しかし、地域を見渡せば、核家族化により、育児で悩みを抱えていたり、離婚や育児放棄、児童虐待によって、健全でない家庭環境の世帯が多い現実を目の当たりにする。この課題を解決するために以下の取り組みを推進する。 1) 地域ボランティアとのふれあいの中で、大家族体験ができる居場所づくりを行い、子どもたちが地域と繋がりを持てるようにし、異なる価値観を認めて尊重し、お互いに助け合って自立する力を養う場をつくる。 2) セミナーを実施し、保護者と子育ての悩みを一緒に考えたり、子どもたちの自己肯定感を高めたり、キャリア形成を貢献する。			
● 団体の活動基盤	<ul style="list-style-type: none"> ● 人的資源：利用者の支援ニーズの早期発見、必要支援の提案を行える居場所スタッフ、および関連団体、専門機関への連携を行うコーディネータ人材の支援を通しての育成 ● 物的資源：学習・生活支援のための学習教材、事務用品、調理器具、食材、玩具などについて、地域に理解ある団体、企業からの寄付で賄えるネットワークの構築 ● 活動資金：団体の裁量・工夫の余地の大きい自主財源(会費・寄付)を十分に確保し、支援内容の充実、規模の拡大を行える財力を保持していること。 ● ナレッジ：先駆的な本事業の取り組み、培ったノウハウがマニュアル化され、人材育成体に用いられる。また、モデル事業として他団体に届いたり、支援者への情報提供、寄付集めに利用される。 			
■ 活動報告			■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)	
<p>● 学習・生活支援を行う居場所づくり</p> <p>どんな子どもたちでも安心して来られるように、ボードゲームを中心とした交流を図り、スタッフと打ち解けていく中で、勉強を教えたり、工作を通して社会性を育み、社会的に自立する力を養った。</p> <p>● 要支援児童の早期発見と専門機関、専門家への連携</p> <p>子どもたちと接する中で、子どもたちの振る舞いを観察して、気になる子どもたちについてスクールソーシャルワーカーと情報交換したり、気になる様子について専門家にアドバイスを求めた。</p> <p>● 保護者のための居場所づくり</p> <p>子育てする方が誰でも来られるように、カフェを開設し、手芸などを実施して、話しながらスタッフと打ち解けて、困り事などが自然に相談できるようにして居場所づくりを実施した。</p>			<p>● 学習・生活支援を行う居場所づくり</p> <p>①開催 週1回実施(週3回実施が当初目標)</p> <p>②目標アウトカム「利用者の生活習慣の改善」:利用者の50%以上が1段階以上UP(うち30%以上が2段階以上UP)</p> <p>● 要支援児童の早期発見と専門機関、専門家への連携</p> <p>①開催 3回実施(毎月実施が当初目標)</p> <p>②目標アウトカム「利用者が必要支援を受援」:利用者の10%が必要支援を受けている</p> <p>● 保護者のための居場所づくり</p> <p>①開催 週1回実施(週3回実施が当初目標)</p> <p>②目標アウトカム「利用者がスタッフに相談する」:2人の利用者が相談するようになった。</p> <p>● スタッフマニュアルに基づく人材育成の実施</p> <p>①支援者ミーティング月1回以上実施、ボランティア研修1回実施</p> <p>②自発的に活動できる支援スタッフ 5名 スタッフスキル3段階以上習得 3名</p>	
■ 事業を通じて得られたノウハウ			■ 望ましい社会状況を達成するための課題	
<p>● 子どもたちの社会性を養うには、絵本の読み聞かせによりコミュニケーションのきっかけを作ったり、簡単なテーマを取り上げてディスカッションすることが有効であることがわかった。</p> <p>● 保護者のためのカフェを開設することに加え、DIYやボードゲームなど、手を動かしている方が話がしやすく、日常のことだけでなく、どのような幼少期を経てきたかなどについても知る機会を持つことができることがわかった。</p> <p>● 不登校児童の家庭は、公共の場所へと出てくるのが難しいことが居場所づくりの実施によりわかった。また、スクールソーシャルワーカーとの情報交換でも、友人の友人などの関係を通じてでも訪問を行うことが効果的であることがわかった。</p>			<p>子どもたち一人ひとりが社会的に自立する力を養い、また保護者が子育ての悩みを解決するのを助けるために、「学習・生活支援を行う居場所づくり」、「保護者のための居場所づくり」を行ってきたが、以下の課題が明らかになった。</p> <p>「学習・生活支援を行う居場所づくり」では、特に支援が必要な不登校児童の利用者数がとても少なかった。また、「保護者のための居場所づくり」についても同様であった。教育委員会を通して、学校のスクールソーシャルワーカーより居場所の案内をしていただいたが、引きこもってしまうケースがとても多く、人が少ない午前中の時間帯であっても利用に至らなかった。このことから、友達の友達、知り合いの知り合いを通じても直接訪問できる体制づくりを行い、要支援者との関係を深めていくことが重要であると認識した。また、居場所に来る利用者でも、いつ引きこもってしまうかわからないため、継続して支援者が関係を持ち続けることの大切さも感じている。</p>	
■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）			この1年間の活動を通じて	当団体は、無料の学習生活支援の居場所づくりを実施し、11名の定着した利用者ボランティアスタッフ5名の育成
■ 受益者の具体的な変化（自由記入）			<p>● 達成しました。</p> <p>・人にばかり依存してしまう児童が、自ら手を動かして工作を完成させたり、自分のことを心を開いて話してくれる児童がいて、養育の成果があった。</p> <p>・一度きりの利用者もあったが、一度来られただけでもとても安心したと言ってくれる保護者がいた。</p>	